# 地域連携推進会議　議事録

1. 開会・出席者確認

日時： 2026 年 10 月 19 日（月）

場所： ワイオハの家事業所内

出席者

- 管理者（ホーム長）
- 管理者代理
- 事務員（議事録担当）
- 社会福祉協議会職員
- 利用者 1 名

欠席者（事前連絡あり）

- 利用者家族
- 自治会長（地域代表）
- 障害支援課担当者等

複数名声をかけたが日程が合わず参加に至らなかった

【開会挨拶・主旨説明】

管理者より、地域連携推進会議の開催にあたり、会議の趣旨および目的について説明を行った。

本会議は、グループホームの運営状況や日頃の支援内容を地域関係者に知っていただくとともに、意見交換を通じて、より良い事業所運営につなげることを目的として開催した。

2. 資料説明（概要）

事業所より、配布資料に基づき、グループホームの概要、日頃の支援内容、安全管理および地域との連携について説明を行った。

（1）障害特性と支援方針

利用者一人ひとりの障害特性や得意・不得意なことを把握し、個々の状況に応じた支援を実施していることを説明した。

（2）サービス形態・日常生活支援

共同生活援助のサービス形態や、利用者の日中活動・就労状況に応じた支援について説明した。服薬支援、生活相談、食事の提供、受診同行、行政手続き、清掃・洗濯、金銭管理など、日常生活全般にわたる支援を行っていることを共有した。

（3）職員体制

日勤帯および夜間帯の職員配置と、それぞれの時間帯における支援内容について説明した。巡回や常駐による見守りを行い、利用者が安心して生活できる体制を整えていることを共有した。

（4）自立支援の原則

利用者自身でできることは本人が行い、必要な部分について適切な支援を行うことで、自立した生活を尊重していることを説明した。

（5）緊急時対応・事故防止・権利擁護への取り組み

事業所より、事故・ヒヤリハットの事例と再発防止策について説明を行った。

事故の事例として、てんかん発作の間隔が短くなり、発作を繰り返したため救急搬送を行ったケースが報告された。再発防止策として、発作の状況や体調の変化、ストレスなどの要因について職員間で情報共有し、普段と異なる様子や発作の兆候に早く気づけるよう、見守りや支援体制の強化に取り組んでいることを説明した。

ヒヤリハットの事例として、階段で足を滑らせて転落しそうになったケースがあり、再発防止のため階段にすべり止めシートを設置したことを報告した。

また、職員の移動や業務の遅れにより夕食の提供が通常より遅くなり、利用者が不安を感じる場面があったことから、業務の時間配分を見直し、余裕を持って行動するとともに、食事の時間が大きくずれないよう努めていることを説明した。

これらの事例について、職員間で情報共有や振り返りを行い、利用者が安心・安全に生活できるよう、継続的な改善に取り組んでいることを共有した。

また、虐待防止・身体拘束適正化に関する委員会の開催や研修への参加、防災訓練、感染症対策、事業継続計画（BCP）の見直しおよび訓練を継続していることを共有した。

（6）地域社会との連携

グループホームを単なる施設ではなく、利用者が地域の中で暮らす「家」として捉え、地域住民とのつながりを大切にした運営を目指していることを説明した。

3. 質疑応答・意見交換

資料説明後、社会福祉協議会職員および利用者を交えて、日中活動・就労状況やサテライト型グループホームについて質疑応答・意見交換を行った。以下、主な内容をまとめる。

（1）利用者の日中活動・通所方法について

質問： 利用者は日中、どこに通っているのか。

回答： 管理者代理より、地域活動支援センター1 名、一般就労 1 名、就労継続支援 A 型 1 名、就労継続支援 B 型 1 名との説明があった。

また、通所方法について質問があり、管理者代理より、就労継続支援 A 型・B 型事業所および一般就労先へ自転車で通勤・通所している方がいるほか、バスや電車を利用している方もいるとの説明があった。

利用者からは、基本的には在宅で過ごし、週 2 回通所する形であるものの、実際には通所できていないことも多いとの話があった。

社会福祉協議会職員より、就労継続支援 B 型事業所では送迎があるものと思っていたとの発言があった。これに対し管理者代理より、送迎の有無は事業所や通所先までの距離などによって異なり、近隣の場合は

徒歩で通所している方もいるとの説明があった。

また、野田市内には就労継続支援 A 型事業所が少ないことについても意見交換が行われた。

（2）グループホーム利用者の就労状況について

社会福祉協議会職員より、グループホームの利用者は必ず就労しているものと思っていたが、日中に就労先へ通っていない利用者もいるのかとの趣旨の発言があった。

管理者代理より、当該グループホームでは利用者 4 名全員が働いている一方、系列のグループホームでは、体調や年齢などの事情により就労が難しく、日中に就労先へ通っていない利用者も多いとの説明があった。

社会福祉協議会職員から、参加利用者に対して継続して働いていることは立派であるとの発言があり、管理者代理からも、就労を継続していることは大変すばらしいとの意見があった。

（3）アパート型（サテライト型）グループホームについて

社会福祉協議会職員より、アパート型のグループホームがあることを初めて知ったとの発言があった。

管理者代理より、サテライト型住居を設けた経緯について説明があった。

系列のグループホームは利用者が 2 名となっており、新たな利用者の受け入れが難しい状況であった。また、同ホームは世話人の支援が比較的少ない自立型のグループホームであったため、これまで自立した生活を送ってきた利用者が、その生活を継続できるよう、サテライト型住居で暮らすこととなったとの説明があった。

その後、もう 1 名の利用者は就職先が決まり、一般就労に伴って転居したため、現在は系列の就労継続支援 B 型事業所に通所している利用者がサテライト型住居で生活しているとの説明があった。

4. 閉会挨拶

ホーム長より、会議へのご参加および温かいご意見・ご理解に対する感謝の意を述べる。今後も地域の皆様やご家族と連携を取りながら、より安心・安全で居心地の良いホーム運営を目指していくことを確認し会議を終了した。

5. 欠席者への報告・意見確認

本会議を欠席された関係機関に対し、後日、会議資料および本議事録を手渡し、内容の共有と意見確認を行いました。

報告日・共有方法: 2026 年 10 月 22 日（ 郵送 ）

送付内容: 当日配布資料、地域連携推進会議 議事録

自治会長: 提出日：10 月 23 日

活動・取り組みが良く分かりました。

これからもよろしくお願いいたします。

---

ご利用者様家族：提出なし

---

障害支援課担当者等：提出なし

複数名声をかけたが、日程が合わず参加者がいなかったため、議事録送付は行わなかった。

---